

平成28年度 第1回岡山市特別職報酬等審議会 会議録（概要）

日 時：平成28年9月7日（水）10：30～11：36

場 所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

出席者：委 員 泉会長、古市会長職務代理者、小松原委員、高木委員、鶴身委員、
永見委員、西谷委員、山本委員、吉本委員

岡山市 大森市長、繁定副市長、渡辺人材育成・労務担当局長、眞茅議会事務局長、中村統括審議監、吉川議会総務課長、福田給与課長 他

○開会

○市長あいさつ

○委員等の紹介

○会長の互選及び会長職務代理者の指定

○会長及び会長職務代理者あいさつ

○諮問

○資料の説明

○審議

【委員からの主な意見】

- ・ 政務活動費については額の多寡よりも、透明性がいかに確保されているかが問題視されている。今回の諮問についての審議では、その使途の透明性がいかに確保されるかという点を念頭に議論を深めたい。
- ・ 政務活動費が実際に使用されている費目を見ると、調査研究費が意外に少ない。それぞれの費目がどれも重要だと思うが、調査研究費をどのようなことに使い、どういう研究をしているのかを説明する広聴会のようなものがあればいいのではないか。
- ・ 政務活動費は市民目線で使っていないといけないお金だと思う。今の金額から幾らプラスにするのかといった時に、その根拠となるものを出さないと市民が納得をしない。
- ・ 政務活動費の費目別使用比率を検証できるような定義がないと市民は納得しない。
- ・ 昨今、政務活動費が不正に利用される現状がかなり見受けられるので、透明性を確保した内容を私たちでもしっかりと見たい。
- ・ 値上げありきというような議論ではなくて、本当に市民の皆さん一人ひとりが納得をするような形でベースアップをするならよいと思う。
- ・ 最近の地方自治のキーワードは透明性と、ブラックボックスの解明ということ。
- ・ 他都市と比べて額が低いと言うが、20政令市で岡山市は規模が18番目か19番目だから、1番適当なポジションにあるのではないかと思う。
- ・ 情報の共有とか住民参加、具体的に言うと、議員が住民に活動を知らせる議員報告会や委員会の議事録をインターネットで公開することなど全くやってないと思う。

- ・市民のために使われるお金が適正であったり、岡山市の発展につながるのであれば、政務活動費の増額は全く問題ない。
- ・市民目線で理解できるのかということが一つ、もう一つは政令市になった以上、政策の高度化が必要だということ。
- ・政務活動費の額がここ24年間変わってないとのことだが、物価スライドの話ではデフレ経済なのでむしろ実質的には増えているのではないかということも一つある。
- ・全国の政令市の中で政務活動費の額が下から2番目というのは、ちょっと厳しいという印象を持つ。
- ・議員の皆様が費用の充足度が薄いと言っているが、具体的に何がどう足りないのかというのも一つの検討の視点になる。
- ・各都市と比べてみると、政務活動費を個人に支給しているところと、会派に支給しているところがあるが、ほとんどの市が個人に支給している。調査研究費を個人で申請できれば、その議員の活動を非常に促進するという意味合いもある。

○閉会